

姿川地区 下欠町自治会

「若い人との顔合わせで、新旧交代」

●加入世帯数：77世帯

●加入率：98.7%

活動内容

1. 自治会の概要

市街化調整区域に位置し、世帯数は78世帯、自治会加入世帯数は77世帯と加入率は約99%になります。(鷺の谷町東部の20世帯が、下欠町自治会メンバーとなっている)現世帯主の1代前は、ほぼ全世帯純農家でした。現在純農家は10%以下であり、他は兼業農家であります。世帯主の次の世代が、敷地内に家を建て住むケースが増えています。従って、1世代前は全員顔見知りであったが、現在は若い人に顔が分からないというケースも出ています。

自治会役員は、自治会組織、宇都宮市農業協力委員組織、農協委員組織、町の寺(高照院)の檀徒総代組織、町の神社(星の宮神社)の氏子・世話人組織です。これは、全員で地域を守ろうという、意識の表れでもあります。

昔の組内の区分を継承し、6班に区分しています。自治会長は、各班順送りで分担し任期は1年、班長は班内順送りで分担しています。それ以外の役職も、任期を決めて分担しています。中には、例えば公民館長、消防団部長等、適任の方に継続してお願いしている役職もあります。

町の寺(高照院)の境内や敷地に、

公民館、祭りの山車倉庫、ごみステーション、育成会の花壇があるが、地代は1万円/年(以前は2万円であったが支援のため数年前半額にした)と自治会の台所事情を考えて、協力をしていただいています。

2. 自治会の特徴

新たに目立ったイベントを実施している訳ではないが、全員が役割分担意識を持ち、自治会活動がスムーズに運営されています。これは昔から積上げてきた歴史と現自治会会員の協力意識の高さであると判断しています。加入率は高いので、体育祭等の活動で若い人との顔合わせの機会を持ち、新旧交代を図っています。

(1) 消防団活動の維持継続

成り手が少なくなった状況下、現団員の努力のおかげで消防団が維持でき、必要な活動が維持できています。

(2) 老人会

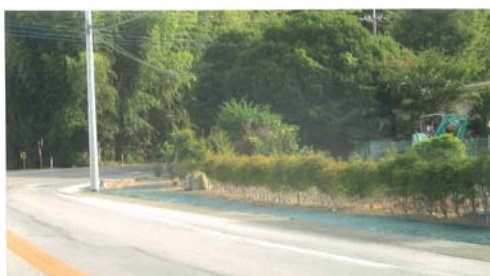
健友会と名付け70歳以上が加入し、種々の活動を実施しています。新築された公民館を使って、定期的に活動を継続しています。会のリーダーが献身的に活動を進めています。また、70歳になられた方を個別訪問し、入会の勧誘を行っています。

(3) 体育部会

体育部長と各班の体育委員が、体育祭、各種大会参加等、活発に活動しています。スポーツ競技は、普段面識の少ない若い人との交流の場であり、特に力を入れています。

(4) クリーン活動

県道沿いのクリーン化については、クリーンディ以外に除草、花木の植え付け等を各家庭が実施しています。1戸の県道沿い距離が40～90メートルと長く、除草するにしても大変な労力が必要だが、皆さんが努力しています。



《県道沿いのクリーン化》

(5) 神社

毎年、新嘗祭に合わせ、総出で神社の清掃、除草、注連縄の張替え等と実施しています。特に注連縄造りは特殊技能であり、若い人への技能の伝承に努めている。各班毎、世話人と氏子を分担し、古くなった社の維持と慣習の継承に努めています。

(6) 寺

下欠町の菩提寺で、町の祖先の位牌を納めています。現在は住職兼務寺となっているが、祠堂等の維持管理は、各班からの檀徒総代が受け持っている。法要だけは、同宗派の住職が務めてくれております。

(7) ごみ減量

殆どの家庭が自家農園を持っているため、生ごみを有機肥料に生かしているため、生ごみをごみステーションに出す割合は低い。従って活動の主体は、資源物の回収に力を入れています。

段ボール、雑誌、新聞紙、ビン等は、公民館の裏に専用の回収場所を設けて回収し、売上代金を自治会費用の補填としています。

その他は、専用ステーションで回収しているが、資源物比率を向上するために、焼却ごみにプラスチックや紙類の混入を下げること、資源となるプラスチックに資源にならないプラスチックごみを混入させないことをPRしています。

(8) 育成会

公民館前庭に、育成会の専用花壇があり季節の花を植えている。公民館で老人会を開くとき、老人会メンバーの心を温める花になっています。



《寺と公民館と育成会花壇》

加入率を維持する秘訣

市街化調整区域に位置する農業区域なので新加入者はゼロです。従って現加入者の継続をすることが、高い加入率を維持することになります。昔からの協調精神を持続する為の日頃のつき合い、協力等に全員が努めています。